自然の中の大切なもの

天王小・４　遊磨　奏太

ぼくは、四年生の社会の勉強で水について学びました。それまで水について考えたことはありませんでした。なぜなら水は、ぼくの周りに当たり前のようにあって、こまることは何もなかったからです。じゃ口をひねればきれいな水が出てきて、飲むことができる。日本ではそれが当たり前です。でも、多くの国で水道水をそのまま飲むことができないと何かのテレビで見ました。それを聞いたときは、そんなことがあるなんてありえないと思いました。でも、お母さんも

「たしかに、外国では水道の水は飲めない。飲むと調子が悪くなる人もいるみたい。」

と言ったのでおどろきました。外国では水道水を飲むとおなかがいたくなったり気分が悪くなったりするので、きれいな水はお金を出して買うそうです。外国の料理にはぼくの好きな料理もたくさんあります。でもそんな料理に使う水はどうするんだろうとふしぎに思いました。飲めない水で料理を作ったらおいしい料理になるのかな、もしかしたら火を通せばだいじょうぶなのかなとも考えました。どちらにしても、外国で料理をするというのは大変なのかもしれないと思いました。そんな風に考えていると、日本の水は人が飲めるようになるまで、どうやってきれいにできるのだろうとぎもんが出てきました。

そんなとき、社会の学習でじょう水場へ見学に行きました。そこで水をきれいにする様子を見て、たくさんのことを知ることができました。じょう水場は思ったよりも小さく、この場所できれいにしてぼくたちの家まで水をとどけてくれているなんてびっくりしました。たくさんの機械だけではなく、休まずに二十四時間三百六十五日見てくれる人のおかげで、長い時間をかけてきれいになると知りました。そして、水のよごれを落とすために最後までしっかりと管理されていることがわかりました。当たり前だと思っていたきれいな水は、たくさんの人の努力から作られているということを知って、水はとてもきちょうなものだと改めて思いました。ぼくたちは水を多く使います。だから、きれいな水がじゃ口から出て、安心でおいしい水を飲むことができる毎日が、とても幸せなものだと気づきました。

でも世界を見てみると、水が不足しているところもあります。水は飲むことだけではなく、料理、せんたく、おふろなどいろいろな場面で使われます。社会の授業では、水が少ないところの写真も見せてもらいました。一日に使える水の量が決まっているところもあるそうです。家に水道がないという国もあって、ぼくと同い年くらいの子が遠くはなれた場所まで水をくみに行く様子もテレビで見ました。一回だけではなく、何回も何回も水を運びます。ぼくにはぜったいにできないと思います。でも水は、命をつなぐとても大切なものなので、やらないわけにいかないんだと思いました。

水を大切に使うためにぼくにもできることはないかと考えて、やってみることにしました。まず、おふろでのシャワーの使い方です。使うときは出しっぱなしにせず、使っていないときはこまめに止め

ることで節約するよう気をつけることにしました。次にあらい物です。家族にもお願いをして、あらい物をしているときも、水をこまめに止めて節約をしてもらいます。学校でもできることを考えました。手をあらうときも水を出したままにはしません。友達にも声をかけてみんなでやれば、たくさんの水を節約できると思います。

ぼくたちができることは少ないかもしれないけれど、一人一人が気をつけていれば変わっていくと思います。わたしたちが使える水は限られていると聞きました。未来のことを考えて、今ある水を大切にし、地球の水をいつまでも使えるように努力したいと思います。水は自然の大切なものだと気づけました。そんな宝物をぼくも守っていきたいです。